

常任委員会活動の評価について

今期（平成28年5月～）

1 チェックシートによる評価

平成29年

3月7日（火）予算決算常任委員会理事会

3月8日（水）常任委員会（戦略企画雇用経済、環境生活農林水産、健康福祉病院）

3月9日（木）常任委員会（総務地域連携、防災県土整備企業、教育警察）

- (1) チェックシートの項目を参考に、1年間の委員会活動を振り返り、良かった点、改善すべき点等を協議する。
- (2) 正副委員長、委員（理事）がそれぞれチェックシートに評点等を記載して提出する。

2 委員会活動評価総括表（案）について協議

3月10日（金）常任委員会（戦略企画雇用経済、環境生活農林水産、健康福祉病院）

3月13日（月）常任委員会（総務地域連携、防災県土整備企業、教育警察）

3月16日（木）予算決算常任委員会理事会

1での議論とチェックシートによる評価結果を踏まえて作成する「委員会活動評価総括表（案）」について協議し、決定する。

3 委員長会議での報告及び検証

3月21日（火）委員長会議

各委員長から、「委員会活動評価総括表」により、1年間の委員会活動の評価を報告するとともに、委員長間で共有すべき取組等を検証し、次期委員会への引継ぎ事項を整理する。

※委員長会議開催後に常任委員会を開催した場合には、「委員会活動評価総括表」への補足の有無・内容について、当該委員会（理事会）において協議し、補足後の「委員会活動評価総括表」を委員長から議長に提出する。

4 代表者会議への報告

5月11日（木）代表者会議

議長から、委員会活動の評価など議会活動計画の実施状況を報告し、今後の対応方針を決定する。





次期（平成29年5月～）

5 次期委員会への引継ぎ

5月18日（木）委員長会議（予定）

議長から、次期委員長に、代表者会議の決定事項と併せて、前期の委員会活動の評価を引き継ぐ。

6 役員改選後の代表者会議への報告

5月22日（月）代表者会議

議長から、前年度の議会活動計画の実施状況及び今後の対応方針を報告する。

議会活動の中心的な役割を果たす各常任委員会において、委員会活動が「監視・評価・政策立案・政策提言」の充実に寄与できたかという観点から評価を行うためのチェック項目をまとめました。
 今年度の委員会活動を振り返り、評価の視点参考にして、委員(理事)の皆さんで自己評価を行っていただき、5段階評価をしてください。(但し、該当のない項目は評価しませんので、当該項目の評価欄には「-」をつけてください。)

【チェックシートを記入するにあたっての注意事項】

	<p>○委員個人の評価とします。</p> <p>○基準となる点数は「3点」とします。</p> <p>1点・・・「ほとんどできなかった」「不満足」</p> <p>2点・・・「あまりできなかった」「例年よりもできなかった」「やや不満足」</p> <p>3点・・・「通常どおりできた」「例年どおりできた」「普通」</p> <p>4点・・・「通常よりも良くできた」「例年よりも良くできた」「概ね満足」</p> <p>5点・・・「ほぼ完璧にできた」「十分満足」</p>
<p>■評価できない項目 (該当なし「-」)</p>	<p>○チェックシートを記入する前に、委員間で協議を行い、評価項目に含めるか否か(「-」とするか否か)を委員会として決めます。</p>

委員会名(環境生活農林水産常任委員会)

項目	評価の視点	評価
(1)年間活動計画の進捗度	<p>年間活動計画の内容は適切なものでしたか。 重点調査項目について十分な調査・審査を行いましたか。 年間活動計画に沿って委員会活動を行いましたか。 (評価点の理由や気づいた点があれば、記載してください。)</p>	
(2)委員会運営の円滑度	<p>すべての議案・事項を丁寧に調査・審査しましたか。 委員会で十分な議論をしましたか。 委員長報告が各委員の合意したものとなるように努めましたか。 (評価点の理由や気づいた点があれば、記載してください。)</p>	
(3)議員間討議の充実度	<p>議員間討議の機会を十分に活用しましたか。 議員間討議を十分に行いましたか。 議員間討議を通じて合意形成を図るよう努めましたか。 (評価点の理由や気づいた点があれば、記載してください。)</p>	
(4)県内外調査の充実度	<p>県内外調査の調査先は適切でしたか。 調査先で十分な調査を実施しましたか。 県内外調査における内容をその後の調査・審査に活用しましたか。 (評価点の理由や気づいた点があれば、記載してください。)</p>	
(5)県民など多様な意見を活用した調査・審査の充実度	<p>「参考人招致」や「公聴会」における意見をその後の調査・審査に活用しましたか。 「みえ現場de県議会」における県民の意見をその後の調査・審査に活用しましたか。 「みえ高校生県議会」における高校生の意見をその後の調査・審査に活用しましたか。 「請願」、「議員勉強会」、「県民の声」などにおける意見をその後の調査・審査に活用しましたか。 (評価点の理由や気づいた点があれば、記載してください。)</p>	
(6)調査・審査結果の施策への反映	<p>調査・審査の結果、施策へ反映したこと(例えば、経過報告を求めた、知事への申し入れを行った、議員提出条例の検討を行ったなど)について記載してください。</p>	

環境生活農林水産常任委員会活動評価総括表

資料3

1 委員会活動の振り返り（委員間討議の結果の概要を記載する）

2 各委員（理事）の評定の平均点

項目	評価の視点	平均点
(1)年間活動計画の進捗度	<p>年間活動計画の内容は適切なものでしたか。</p> <p>重点調査項目について十分な調査・審査を行いましたか。</p> <p>年間活動計画に沿って委員会活動をを行いましたか。</p> <p>（その他、評価の理由等（自由記載））</p>	<p>]</p>
(2)委員会運営の円滑度	<p>すべての議案・事項を丁寧に調査・審査しましたか。</p> <p>委員会で十分な議論をしましたか。</p> <p>委員長報告が各委員の合意したものとなるように努めましたか。</p> <p>（その他、評価の理由等（自由記載））</p>	<p>]</p>
(3)議員間討議の充実度	<p>議員間討議の機会を十分に活用しましたか。</p> <p>議員間討議を十分に行いましたか。</p> <p>議員間討議を通じて合意形成を図るよう努めましたか。</p> <p>（その他、評価の理由等（自由記載））</p>	<p>]</p>
(4)県内外調査の充実度	<p>県内外調査の調査先は適切でしたか。</p> <p>調査先で十分な調査を実施しましたか。</p> <p>県内外調査における内容をその後の調査・審査に活用しましたか。</p> <p>（その他、評価の理由等（自由記載））</p>	<p>]</p>
(5)県民など多様な意見を活用した調査・審査の充実度	<p>「参考人招致」や「公聴会」における意見をその後の調査・審査に活用しましたか。</p> <p>「みえ現場de県議会」における県民の意見をその後の調査・審査に活用しましたか。</p> <p>「みえ高校生県議会」における高校生の意見をその後の調査・審査に活用しましたか。</p> <p>「請願」、「議員勉強会」、「県民の声」などにおける意見をその後の調査・審査に活用しましたか。</p> <p>（評価点の理由や気づいた点があれば、記載してください。）</p>	<p>]</p>

項目	評価の視点 調査・審査の結果、施策へ反映したこと(例えば、経過報告を求めた、知事への申し入れを行った、議員提出条例の検討を行ったなど)について記載してください。	平均点
(6)調査・審査結果の施策への反映	[]	

※評価は5点満点です。(5点・・・大変良くできた、4点・・・良くできた、3点・・・概ねできた、2点・・・あまりできなかった、1点・・・できなかった)
 ※各項目の自由記載欄については、各委員個人の意見を掲載しております。

環境生活農林水産常任委員会 活動計画書（平成28年5月～平成29年5月）

平成28年6月21日現在

1 所管調査事項

- ・生活文化行政の推進について
- ・環境保全の推進について
- ・廃棄物対策について
- ・農業の振興対策について
- ・林業の振興対策について
- ・水産業の振興対策について

2 重点調査項目

- (1) 文化振興について
- (2) 地球温暖化対策と大気・水環境の保全について
- (3) もうかる農林水産業について
- (4) 獣害対策と獣肉等の有効活用について

3. 活動計画表

重点調査項目	平成28年	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平成29年	1月	2月	3月	4月	5月
	(1) 文化振興について (2) 地球温暖化対策と大気・水環境の保全について (3) もうかる農林水産業について (4) 獣害対策と獣肉等の有効活用について	常任委員会 所管事項説明 (5/20)	常任委員会 議案の審査、 所管事項の調 査等 予決分科会 補正予算等 (6/21, 23)	県内調査 (7/26)	県内調査 (8/3)	県外調査 (9/5～7)	常任委員会 議案の審査、 所管事項の調 査等 予決分科会 補正予算等 (10/5, 7)	予決分科会 平成27年度歳入 歳出決算、 所管事項の調査 (当初予算編成に 向けての基本的 な考え方) (11/2)	常任委員会 議案の審査、 所管事項の調 査等 予決分科会 補正予算等 (12/12, 14)	常任委員会 議案の審査、 所管事項の調 査等 予決分科会 補正予算等 (3/3, 5)			当初予算案	平成29年度 経営方針	
執行部の主な予定		成果レポート (案)				一般会計・特 別会計決算 平成29年度経 営方針(案) 当初予算編成 に向けての基 本的な考え方	当初予算要求状 況								

4 県内外調査について

- (1) 県内調査
 - 7月26日 ○○の取組等の調査を行う。
 - 8月3日 ○○の取組等の調査を行う。
- (2) 県外調査
 - 9月5日～7日(2泊3日) ○○の取組等の調査を行う(○○地方方面)

環境生活農林水産常任委員会 活動実績書 (案) (平成28年5月～平成29年5月)

平成29年3月8日現在

1 所管調査事項

- ・生活文化行政の推進について
- ・環境保全の推進について
- ・廃棄物対策について
- ・農業の振興対策について
- ・林業の振興対策について
- ・水産業の振興対策について

2 重点調査項目

- (1) 文化振興について
- (2) 地球温暖化対策と大気・水環境の保全について
- (3) もうかる農林水産業について
- (4) 獣害対策と獣肉等の有効活用について

3 活動計画表

重点調査項目	平成29年													
	平成28年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	
(1) 文化振興について (2) 地球温暖化対策と大気・水環境の保全について (3) もうかる農林水産業について (4) 獣害対策と獣肉等の有効活用について	常任委員会 所管事項説明 (5/20)	常任委員会 議案の審査、 所管事項の調 査等 予決分科会 補正予算等 (6/21, 23)	県内調査 (7/26)	県内調査 (8/3)	県外調査 (9/5～7)	常任委員会 議案の審査、 所管事項の調 査等 予決分科会 補正予算等 (10/5, 7)	予決分科会 平成27年度歳入 歳出決算、 所管事項の調査 (当初予算編成に 向けての基本的 な考案方) (11/2)	常任委員会 議案の審査、 所管事項の調査 等 予決分科会 補正予算等 (12/12, 14)		予決分科会 補正予算 (2/22)	常任委員会 議案の審査、 所管事項の調 査等 予決分科会 補正予算、補 正予算等 (3/8, 10)			
執行部の主な予定		成果レポート (案)				一般会計、特 別会計決算 平成28年度経 営方針 (案) 当初予算編成 に向けての基 本的な考案方		当初予算要求状 況		当初予算案	平成28年度 経営方針			

4 県内外調査について

- (1) 県内調査
 - 7月26日 文化振興や水環境の保全などに関する取組を調査した。
 - 8月3日 獣害対策や文化振興に関する取組、廃棄物の不適正処理事案を調査した。
- (2) 県外調査
 - 9月5日～7日 (2泊3日) もうかる農業に向けた取組や、自然環境の保護・管理に関する取組、戦略的に進める文化振興の取組、獣肉等の有効活用を促進する取組等を調査した。

平成28年度の主な議会の取り組み（参考）

- 1 子どもの貧困対策調査特別委員会の設置<5月>
- 2 サミットを契機とした地域の総合力向上調査特別委員会の設置<5月>
- 3 選挙区調査特別委員会の設置<5月>
- 4 三重県手話言語条例（議員提出条例）の制定<6月>
- 5 「成果レポート」に基づく今後の県政運営等に関する知事への申し入れ<8月>
- 6 みえ高校生県議会の開催<8月>
- 7 公共政策大学院からのインターンシップ実習生の受入れ<9月>
- 8 みえ現場 de 県議会の開催<1月>
「女性活躍の推進～中小企業の現場で～」
- 9 議員勉強会の開催
 - ・第1回 「子どもの貧困対策について」<9月>
道中 隆 氏（関西国際大学教授）
 - ・第2回 「手話の普及をめぐる現状と課題」<11月>
金澤 貴之 氏（群馬大学教授）
 - ・第3回 「女性の職業生活における活躍推進について」<3月16日開催予定>
権文 英子 氏（亜細亜大学副学長）

施策番号	施策名	担当部署	委員意見	回答
312	農業の振興	農林水産部	農地中間管理事業により、担い手への農地集積・集約化が進められているところであるが、今年度、制度の改正があった中で、耕作放棄地が増えることのないよう、さらなる農業振興を図りたい。	制度の改正により混乱が生じないよう、地域機関ごと設置した農地中間管理事業の推進チームにおいて、引き続き、地域の話し合いを丁寧に進めるとともに、中山間地域等直接支払事業など、国の各種制度も有効に活用し、耕作放棄地の発生抑制に努めてまいります。
313	林業の振興と森林づくり	農林水産部	林業の振興に向けて、県産材の販路開拓や木質バイオマス発電所への木質チップ原料の安定供給などを進める必要があることから、他府県の優良事例などを参考に先進的な取組にチャレンジしていただきたい。	林業の振興には、A材（建築用材）、B材（合板用材）、C材（木質チップ原料）それぞれが必要を確保しつつ、生産性の向上に取り組む必要があります。引き続き、他府県の優良事例等も参考にしながら、低コスト造林や基盤整備など林業の収益性向上に向け、取組、木材流通の合理化、CLTの普及や県産材の輸出促進など、川上、川中、川下の対策を総合的に進めてまいります。
314	水産業の振興	農林水産部	近年、三重県沿岸での開発や気候変動の影響等により、伊勢湾内のアサリが激減している状況に、干潟の再生・保全の取組をさらに進められたい。	干潟は、水産動植物の生息場や漁場環境の自然浄化機能などを有しているものの、開発・埋立などによる減少で機能が低下しています。干潟保全の取組を支援するため、多様な主体による干潟資源の増産に向け、「伊勢湾アサリ復活プロジェクト推進事業」により干潟の再生を推進してまいります。

各定例月会議における委員長報告一覧

10月

●自然環境の保全について

本県には、豊かな自然や美しい景観があり、中でもリアス海岸を有する「伊勢志摩国立公園」は、環境省が進める国立公園満喫プロジェクトの先導的モデルに選定されるなど、高く評価されているところです。

こうした三重ならではの自然・景観をしっかりと守り、次世代に引き継いでいくためには、国立公園内におけるソーラーパネルの設置に関する規制の検討など、事業者等による開発が、景観の保全も含め、自然環境に配慮したものとなることが求められます。

県当局におかれては、地域の自然環境が確実に保全されるよう、関係部局が連携して、適切に指導等に取り組まれることを要望します。

(平成 28 年 10 月 19 日 常任委員会委員長報告)

●間伐の取組について

森林は、木材の供給をはじめ、水源のかん養や県土の保全、地球温暖化の防止等の多面的機能を有しています。

こうした機能が発揮されるためには、森林の適切な整備及び保全を進めていくことが求められますが、昨年度における間伐実施面積の累計は、「三重の森林づくり基本計画」に掲げる目標を下回る結果となっています。

県当局におかれては、施業の集約化や路網整備、高性能林業機械の導入など、さらなる効率化・低コスト化を進めることにより、間伐が促進されることを要望します。

(平成 28 年 10 月 19 日 常任委員会委員長報告)

11月

○私立学校に対する支援について

厳しい財政状況が続くなか、私立学校に対する補助金事業についても、来年度当初予算要求では、事業の統合や休止などの見直しが行われています。

県当局におかれては、私立学校では、建学の精神に基づく個性豊かで多様な教育が行われ、教育の振興及び発展に寄与していることをふまえ、私立学校への支援を堅持し、さらに充実されるよう要望します。

(平成 28 年 12 月 19 日 分科会委員長報告)

○外国人住民への相談対応について

来年度の「安全で安心な生活への支援事業費」の予算要求では、市町における外国人住民への取組が進んできたことから、多言語による相談窓口を廃止するとしています。

県当局におかれては、利用者が引き続き適切に相談を受けられるよう、関係市町との緊密な連携を図ることを要望します。

(平成 28 年 12 月 19 日 分科会委員長報告)